

氏名	北島 義典	部署	健康開発学科健康行動科学専攻	職名	准教授
研究分野	運動疫学、体力科学、健康科学、公衆衛生				
学位	修士(体育学)				
学歴	1987年 中京大学体育学部体育学科、1991年 中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年 中京大学大学院体育学研究科博士課程				
経歴	1994年(財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員、2005年同研究所副主任研究員、2011年同財団新宿健診センター学術室 室長(兼務)、2012年公立大学法人 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士課程前期 健康福祉科学専修 准教授、2014年 同大学院保健医療福祉学研究科 博士課程後期 准教授				
所属学会(役職)	日本運動疫学会(理事)、日本健康教育学会(理事)、日本体力医学会(評議員)、American college of sports medicine、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本栄養改善学会、日本民族衛生学会、日本学校保健学会、日本ストレス学会				

【2017年度実績】

1. 研究業績					
著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月	
(1) 著作					
1 該当なし					
(2) 論文					
1 地域高齢者における認知機能低下の関連要因 横断研究(査読付)原著	共著	日本老年医学会雑誌,54(2), 143-153	根本裕太, 佐藤慎一郎, 高橋将記, 武田典子, 松下宗洋, 北島義典 , 荒尾孝	2017. 4	
2 Sociodemographic, biological, psychological, and behavioral correlates of cycling in community-dwelling Japanese older adults: A cross-sectional study. (査読付)原著	共著	The Journal of Physical Fitness and Sport medicine, 6(3), P175-P182	Amagasa S, Fukushima N, Kikuchi H, Ohya Y, Odagiri Y, Takamiya T, Oka K, Kitabatake Y , Shigeru Inoue	2017. 5	
3 地域在住の自立高齢者における膝痛の有症率と膝痛者の基本特性 全数調査(査読付)原著	共著	日本公衆衛生学雑誌, 63(9), 322-329	佐藤 慎一郎, 根本裕太, 高橋 将記, 武田 典子, 松下 宗洋, 北島 義典 , 荒尾 孝	2017. 6	
4 小学4・5・6年生児童および中学1・2・3年生生徒における食事の楽しさと食行動との関連:横断研究(査読付)原著	共著	健康支援, 20(1), 27-34	西中川まき, 稲山貴代, 北島義典 , 根本裕太, 荒尾孝	2018. 1	
5 The association of single and combined factors of sedentary behavior and physical activity with subjective cognitive complaints among community-dwelling older adults: cross-sectional study.	共著	PLOS ONE -D-17-34821R1	Nemoto H, Sato S, Takahashi M, Matsushita M, Kitabatake Y , Maruo K	2018. 3. Accept	
(3) 学会発表					
1 団地における住民主体の健康なまちづくりー第2報:5年間の評価.	共著	第26回日本健康教育学会誌(東京)	北島義典 , 延原弘章, 三浦宜彦.	2017. 6	
2 地域在住自立高齢者における膝痛の関連要因	共著	第26回日本健康教育学会誌(東京)	佐藤慎一郎, 根本裕太, 高橋将記, 武田典子, 松下宗洋, 北島義典 , 荒尾孝	2017. 6	
3 地域高齢者における認知機能低下と膝痛との関連の検討	共著	第26回日本健康教育学会誌(東京)	根本裕太, 佐藤慎一郎, 武田典子, 松下宗洋, 北島義典 , 荒尾孝	2017. 6	
4 小学5年生を対象とした食事バランスガイドを用いた食教育プログラムの介入効果の検討ー進実験デザインによる学校介入	共著	第26回日本健康教育学会誌(東京)	西中川まき, 稲山貴代, 根本裕太, 北島義典 , 荒尾孝	2017. 6	
5 地域高齢者における要介護リスクと身体活動量との関連	共著	第26回日本健康教育学会誌(東京)	高橋将記, 根本裕太, 佐藤慎一郎, 武田典子, 松下宗洋, 北島義典 , 荒尾孝	2017. 6	
6 Relationship between physical exercise and sleep in people who underwent a health checkup in Japan.	共著	The 21st World Congress of Epidemiology	Kitabatake Y , Kayaba K, Uchiyama M, Nobuhara H	2018. 8	

7	喫煙と生活満足度との関連	共著	第76回日本公衆衛生学会総会抄録集(鹿児島)	伊藤奏, 延原弘章, 若林チヒロ, 野口有紀, 北島義典 , 本間三恵子, 内山真理, 新村洋未, 山口乃生子, 金さやか, 柳川洋	2018. 11
8	地域住民の受動喫煙の実態	共著	第76回日本公衆衛生学会総会抄録集(鹿児島)	延原弘章, 本間三恵子, 若林チヒロ, 北島義典 , 内山真理, 伊藤奏, 新村洋未, 山口乃生子, 金さやか, 野口有紀, 柳川洋	2018. 11
9	中国北京市、韓国、日本における喫煙と受動喫煙	共著	第76回日本公衆衛生学会総会抄録集(鹿児島)	若林チヒロ, 伊藤奏, 野口有紀, 本間三恵子, 内山真理, 山口乃生子, 北島義典 , 新村洋未, 延原弘章, 金さやか, 柳川洋	2018. 11
10	健康情報を求める者の属性・主観的健康感及び生活満足度:本邦・ハワイの比較	共著	第76回日本公衆衛生学会総会抄録集(鹿児島)	本間三恵子, 延原弘章, 若林チヒロ, 北島義典 , 内山真理, 伊藤奏, 新村洋未, 山口乃生子, 金さやか, 野口有紀, 柳川洋	2018. 11

(4) その他

1	第26回 日本健康教育学会 運営委員
2	The 21st World Congress of Epidemiology 第21回国際疫学会 運営委員
3	Journal of Epidemiology(英文誌:日本疫学会) 査読
4	体力研究(公財・明治安田厚生事業団体力医学研究所) 査読
5	体力科学(日本体力医学会) 査読

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	平成27・28・29年度 文部科学省科研 基盤研究(B)	『地域高齢者を対象とした生活拠点型介護予防システムの開発』研究代表者 荒尾孝(研究分担者 北島義典)	2015.4-2018. 3
2	埼玉県立大学 大学推進研究	『武里団地における住民主体の健康なまちづくりー若者と築く「健康長寿武里モデル」(武プロ)ー』(研究代表者 北島義典)	2017. 4-2018. 3
3	公益社団法人日本理学療法士協会 予防理学療法の確立を目的とした大規模臨床研究に対する研究助成	『地域自立高齢者における要介護状態への移行の実態とその予防対策に関する研究』、研究代表者 佐藤慎一郎(研究分担者 北島義典)	2017. 12-2019. 11

3. 教育業績

	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	学部:健康科学 I	2012. 4 ~	(1)健康とは、(2)身体的健康 非感染性疾患、(3)身体的健康 身体活動 I、(4)身体的健康 身体活動 II、(5)精神的健康 こころの健康 I、(6)精神的健康 こころの健康 II、(8)精神的健康 こころの健康 III、(9)精神的健康 こころの健康 IV、(10)社会的健康 ※学会で得られた情報をupdateして、資料を作成した。
2	大学院 健康長寿論(博士後期課程)	2015. 4 ~	履修者のディスカッション能力を高める工夫をした。
3	大学院 加齢神経運動機能論(博士後期課程)	2015. 4 ~	質問紙調査の活用法
(2) 演習			
1	学部:健康行動科学演習	2012. 4 ~	(1)調査票のデータ化(2)エクセルの使い方(3)spssでの集計(4)spssでの解析(5)グラフの作り方(6)データ入力(7)データチェック(8)論理チェック(9)集計と報告書作成(10)分析データのまとめ ※グループ作業を通じて協力の体制づくりを意識させる工夫をした。
2	学部:課題別演習 I・II	2012. 4 ~	卒業研究に関する研究計画書の作成方法(研究倫理、エビデンスレベル、統計解析、論文の書き方)
3	大学院 健康長寿演習(博士後期課程)	2015. 4 ~	地域での健康づくりに関する、介入方法(プログラム開発)、評価方法、住民と行政との協働の作り方を事例をあげて解説。
(3) 実習			

1	学部:健康行動科学臨地実習	2012.4～	(1-3)課題・問題の抽出および対策案の作成、(4-12)プログラム作成・リハーサル、(13-15)住民に対する健康支援プログラムの実施。 ※住民との交流に関心が持てるように工夫した(わかりやすいPPTづくり等)。
2	学部:健康生活測定	2012.4～	(1)健康をはかるとは、(2)血圧測定、(3)レポートの書き方、(4)肥満度、(5)身体活動量、(6)栄養摂取量、(7)調査でわかるもの、(8)健康情報の正しい選択 ※身近にある健康指標に対する意識や活用法を伝える。
3			
(4)論文指導			
1	学部(卒業研究)		指導5名
2	博士課程前期		主指導1名、副指導1名、副査1名
3			
(5)その他			
1	IPW実習	2012.4～	
2	香港理工大学 講義	2012.4～	身体活動とうつとの関連
3			
4. 社会貢献活動			
(1)講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	健康運動指導士養成講座(講演)	日本健康・体力づくり財団	「体力測定と評価」
2	まちだ市 市民大学「こころ」と「からだ」の健康学(講演)	町田市教育委員会	「気軽な運動で、生活習慣病の予防・改善」
3	健康運動指導士養成講座(講演)	日本健康・体力づくり財団	「体力測定と評価」
4	性と生殖に関する健康と権利についての講座	越谷市男女参画支援センター	睡眠と健康 ～ぐっすり眠れるコツ～
5	警察庁 健康管理実務専科	警察庁	「運動における生活習慣病対策」
(2)国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	戸田市福祉保健センター	戸田市健康長寿プロジェクト評価委員	2017.5～
2	埼玉県健康長寿課	「埼玉県コバトン健康マイレージ」効果検証検討会	2017.11～
3			
(3)ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	東武よみうり新聞 コラム	『質の良い睡眠に軽運動が効果』	2017.12
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	大学院 教務委員会		
2	学部 入試実施部会		
3	大学院 入試問題作成		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	早稲田大学招聘研究員		